

令和5年度自己評価に対する学校関係者評価表

1 学校の教育目標

基本理念：歯科医療の専門知識と技術の習得を行うとともに、豊かな人間性を育み、学生自らが
歯科衛生士としての自覚を持ち、成長する力を身につけるよう導く。

教育目的：

- 1、医療人としての自覚をもった歯科衛生士の育成
- 2、地域保健に貢献できる歯科衛生士の育成
- 3、歯科衛生士を生涯の職業とする確固たる意志をもった人材の育成

2 本年度に定めた重点的に取組むことが必要な目標や計画

- 1、歯科医療の大切さを内外に広く知らしめる
- 2、社会常識を十分に理解し、自己管理能力を身につける
留年・退学者の減少
- 3、優秀な人材の充足を確立するとともに、歯科衛生士国家試験合格率100%の
安定化を達成する

3 評価項目の達成および取組み状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4 やや不適切…2 …1	ほぼ適切…3 不適切…1	評価
1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3 2 1	同意する
1-2 学校における職業教育の特色があるか	4	3 2 1	
1-3 社会経済のニーズなどを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3 2 1	
1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者などに周知されているか	4	3 2 1	
1-5 各学科の教育目標・育成人材像は、学科などに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3 2 1	

①課題

1. 在学中だけでなく卒業後も本校の学生としての自覚をもつこと、及び礼儀・常識また医療人としての教育の強化
2. 医療を取り巻く環境の変化を認識し、対応できる人材の育成
3. 学校の理念・目標を、教職員、学生、保護者が十分に理解するとともに、業界のニーズに即した人材育成を図るという認識の共有

②今後の改善対策

1. 在学性のみならず既卒生とも関係を強化し、歯科医療の重要性について機会あるごとに伝え、継続的なレベルアップを図る。
2. 高等学校への出前授業やガイダンスを通じ、歯科衛生士を目指す人材を発掘し歯科医療の魅力を伝える。
3. 社会人としてのマナーや身だしなみ等の指導を頻繁に行う。
4. 急激な社会環境（医療も含め）の変化に即応できる人材育成の体制作りを図る。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	評価
2-1 目的などに沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	同意する
2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 ③ 2 1	
2-3 運営組織や意思決定機能は、規則などにおいて明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1	
2-4 人事で給与に関する規定などは整備されているか	④ 3 2 1	
2-5 教務・財務など、組織整備の意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	
2-6 業界や地域社会などに対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	
2-7 教育活動などに関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	
2-8 情報システム化などによる業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1	

①課題

1. 教職員に対する運営方針、レポートラインの周知
2. 運営方針に沿った具体的な事業計画の立案の必要性
3. 計画を実効性あるものにするための組織体制や意思決定機能等の明確化及びガバナンス体制の強化
4. 更なる業務の効率化による学生への還元

②今後の改善対策

1. 運営方針及び目的を再確認するとともに、それに応じた事業計画を適宜見直す。
2. 専任会議での情報の共有、及び教務委員会における決定事項を遵守し、報・連・相を徹底する。
3. 授業でのモバイル機器導入について検討する。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	評価
3-1 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	④ 3 2 1	同意する
3-2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	
3-3 学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	
3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの作成・見直しなどが行われているか	④ 3 2 1	
3-5 関連分野の企業・関係施設などや業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか	④ 3 2 1	
3-6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシップ・実技・実習など）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1	
3-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1	
3-8 職業教育に対する外部関係からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1	
3-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	
3-10 資格取得などに関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1	

3-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
3-12 関連分野における業界などとの連携において優れた教育（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
3-13 関連分野における先端的な知識・技能などを修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	④ 3 2 1
3-14 職員の能力開発のための研修などが行われているか	4 ③ 2 1

①課題

1. 教育課程の編成・実施方針の見直し及び授業に関する評価体制の整備
2. 専任教員のスキルアップ
3. 研修受講後の取り組み

②今後の改善対策

1. 全ての学生がガイドラインの到達目標に達成できるよう具体的な評価ができる体制を整備する。
2. 前・後期のバランスを考慮した時間割の策定を念頭に、カリキュラム策定のための意見交換の場を設ける。
3. 関連施設などとの連携や交流を増やす。
4. 専任の講習会への参加機会を増やし、受講内容の復命を徹底することで、教務全体の能力向上を図る。
5. 歯科医療現場に即した教材を活用する。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	評価
4-1 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	同意する
4-2 資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1	
4-3 退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1	
4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1	
4-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1	

①課題

1. 国家試験の全員合格
2. メンタルケアの充実
3. 卒業後の研修や交流機会への支援

②今後の改善対策

1. 国家試験対策の充実のため、早期からの能力確認試験等を実施する。
2. 学業不振者に対し、きめ細やかな個別指導を行う。
3. 関連分野と協力し、卒業後の研修支援を行う。
4. 日ごろから悩み相談に対応するなど、学生の日常の動向に注意する。
5. 在校生と現在活躍している卒業生との交流の場を作る。
6. 卒後1～2年の卒業生との交流の場を設け、学生時代の振り返りや現在の状況など現場で働くDHの声を聴くことで、学生の意欲の向上に繋げる。
7. 既卒生の国試未合格者を対象に早期からのフォローアップを図る。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4 やや不適切…2 不適切…1	ほぼ適切…3	評価
5-1 進路就職に関する支援体制は整備されているか	④	3 2 1	同意する
5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3 2 1	
5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3 2 1	
5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3 2 1	
5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3 2 1	
5-6 学生の生活環境への支援は行われているか	④	3 2 1	
5-7 保護者と適切に連携しているか	④	3 2 1	
5-8 卒業生への支援体制はあるか	④	3 2 1	
5-9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3 2 1	
5-10 高校・高等専修学校などとの連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3 2 1	

①課題

1. 学生との対話時間不足の解決策
2. 実習先でのトラブル防止のためのマナー指導の強化
3. 生活困窮者への支援等の情報提供
4. 卒業生に対するスキルアップ等実習指導及び場所の提供、また専任による転職等に関する支援体制

②今後の改善対策

1. 外来講師の充実を図ることで、一般教養に関する指導の強化を図る。
2. 臨床実習医院との情報交換を密にする。
3. 生活困窮者が学修を継続できるよう公的な情報提供などにより支援する。
4. 卒後教育とした卒業生に対して学校設備を活用しスキルアップを図る。

③特記事項

様々な感染症のまん延に対応するため、平常時からの感染予防対策を講じるとともに、発症時には早期に対応し感染拡大を防止する。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4 やや不適切…2 不適切…1	ほぼ適切…3	評価
6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3 2 1	同意する
6-2 学内外の実習施設、インターシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか	④	3 2 1	
6-3 防災に対する体制は整備されているか	④	3 2 1	

①課題

1. モバイル機器の導入や校内のインフラ整備等今後の整備計画

②今後の改善対策

1. ハード面ソフト面を含む環境整備について中長期的な整備計画を立案し、必要に応じ委員会を設置し検討する。
2. 学校図書の保管状況を確認し必要な図書の購入や貸出体制を整備する。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4 やや不適切…2 …1	ほぼ適切…3 不適切…1	評価
7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3 2 1	同意する
7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3 2 1	
7-3 学納金は、妥当なものとなっているか	4	3 2 1	

①課題

1. 学校ホームページの充実
2. 広範囲な地域への学生募集活動
3. 男子学生の受け入れの検討

②今後の改善対策

1. 適宜ホームページを更新することにより、希望者へより多くの情報を伝える。
2. 遠隔地でのガイダンスの実施や、高校訪問活動の実施等により定員の充足を図る。
3. 国の方針に沿った学生受け入れ方針を策定する。

③特記事項

進路に迷う学生・社会人に、適切で正確な情報伝達（動画配信等）を行い、歯科医療の社会貢献や歯科衛生士の役割等継続的に周知する。

(8) 財務

評価項目	適切…4 やや不適切…2 …1	ほぼ適切…3 不適切…1	評価
8-1 中長期的に学校の財掛基盤は安定しているといえるか	4	3 2 1	同意する
8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3 2 1	
8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3 2 1	
8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3 2 1	

①課題

1. 増改築、備品購入等財政的収支計画や運営方針の具体化
2. 経済的負担軽減を念頭においた教科書、器材等配布品の選定

②今後の改善対策

1. 少子化に対応した学校運営を念頭に置いた運営計画のもと、中長期的で具体的な運営方針を明確にする。
2. 感染に備えた個人防護具（PPE）備蓄のための予算を確保する。

(9) 法令などの遵守

評価項目	適切…4 やや不適切…2 不適切…1	ほぼ適切…3	評価
9-1 法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	4	3 2 1	同意する
9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3 2 1	
9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3 2 1	
9-4 自己評価結果を公開しているか	4	3 2 1	

①課題

1. 学校関係者評価の充実

②今後の改善対策

1. 役員、教務等関係者が法令や設置基準等を再認識し適切な学校運営を行う。
2. 引き続き自己評価表等による評価を行い、ホームページに掲載し広範囲に開示する。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4 やや不適切…2 不適切…1	ほぼ適切…3	評価
10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3 2 1	同意する
10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3 2 1	
10-3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練などを含む）の受託などを積極的に実施しているか	4	3 2 1	

①課題

1. 専門性を活用した、障害者施設や高齢者施設などでの地域貢献
2. 講義内容に適した講師を派遣するための人材育成

②今後の改善対策

1. 学校の施設等を活用し、地域行事等に積極的に参加する。
2. 高等学校、中学校から依頼があった場合は、歯科医療の普及に積極的に協力する。
3. 教育機関という特徴を活かし、地域住民に対する講座や教育訓練等の受託等を実施し地域に貢献する。

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価項目	適切…4 やや不適切…2 不適切…1	ほぼ適切…3	評価
11-1 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3 2 1	同意する
11-2 留学生の受入れ派遣、在籍管理などにおいて適切な手続きなどがとられているか	4	3 2 1	
11-3 留学生の学修・生活指導などについて学内に適切な体制が整備されているか	4	3 2 1	
11-4 学習成果が国内外で評価される取組みを行っているか	4	3 2 1	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今回の自己評価を行った結果は、概ね「適切」といえるものであった。

学校運営、教育活動等においては、現段階でできることを十分に行っており、福岡県南部における、歯科衛生士養成機関としての本校の存在意義は高い。

特に運営に関しては、歯科医師会立という組織構成において、担当役員が交代する場合もあるため、年度ごとに、教育理念や運営方針を周知確認する必要がある。改善すべき点については関係者一同で検討するとともに、事業計画についても必要に応じて見直すことが重要である。

設備、備品などの拡充については、遅滞することなく対処できている。今後は施設の老朽化対策も含めて、単発的でなく中長期的な視野で教職員とともに検討し、即応できる体制作りを図る必要がある。

教育活動では、コロナ禍を経て、通常生活に戻りつつある中で、校内外における実習も実施され、より実践的な学習に取り組むことができた。ただ、平時からの感染対策については、備品の備蓄も含め引き続き留意する必要がある。新たな設備の設置などの費用もかさんだが、ある程度の今後の道筋は見えたと感じる。日々の授業では専門教育や一般教養に関する知識だけでなく、社会に出てからの基本的なマナー等を習得させることができおり、よりよい結果に導くことができたと考えられる。

今後は、卒業生との交流や多職種との職業の関わりなど、人的交流で学ぶ機会を更に増やし、歯科衛生士としてのみではなく一社会人としての自覚を育てていく。

国家試験合格については、模擬試験や特別講義などの国家試験対策が十分であるが、卒業試験のあり方と、国家試験受験資格の意味を、教員、学生ともに認識し、学業優先の生活環境を整えるために保護者とも密接な支援体制を確立し、合格率100%を目標にして努力していきたい。

学生募集については、地域性に主体を置きながらも、九州各地に募集範囲を広げ安定した学校運営に力を入れている。さらに、教職員間の意思の統一を行い、教育成果の評価報告を含め、学生の育成方法について、受験者側への十分な周知が必要と考える。

今後とも、歯科医師会立という背景を考慮し、地域に貢献できる人材の輩出を目的に募集活動を行っていく。今回の自己評価の結果から、問題意識を常にもち、よりよい改善策を関係者全員が有意義に検討し、教育現場としての環境を整えることで、学生に安定した学校生活を提供し、さまざまな人的交流の機会を与えることで、確固たる職業意識を持った歯科衛生士の育成に繋げたい。